

FUJITSU Network SR-X トラブルシューティング

V02

はじめに

このたびは、本装置をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

サーバとの共存性を高めた、省スペース・省電力の本製品はサーバ間接続に最適です。

2014 年 10月初版

本ドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています。

従って本ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Copyright FUJITSU LIMITED 2014

目次

はじめに	2
本書の使いかた	4
本書の読者と前提知識	4
本書における商標の表記について	5
本装置のマニュアルの構成	6
1 通信ができない場合には	7
1.1 起動時の動作に関するトラブル	7
1.2 本装置設定時のトラブル	9
1.3 LACP に関するトラブル	11
1.4 MLAG に関するトラブル	12
1.5 IGMP スヌープに関するトラブル	12
1.6 SNMP に関するトラブル	13
1.7 通信性能に関するトラブル	14
1.8 WWW ブラウザによる本装置への接続時のトラブル	15
1.9 外部メディアスタート機能に関するトラブル	17
1.10 端末移動時のトラブル	18
2 コマンド入力が正しくできないときには	19
2.1 シェルに関するトラブル	19
3 ご購入時の状態に戻すには	20
索引	21

本書の使いかた

本書では、困ったときの原因・対処方法やご購入時の状態に戻す方法について説明しています。

本書の読者と前提知識

本書は、ネットワーク管理を行っている方を対象に記述しています。

本書を利用するにあたって、ネットワークおよびインターネットに関する基本的な知識が必要です。

ネットワーク設定を初めて行う方でも「機能説明書」に分かりやすく記載していますので、安心して読みいただけます。

マークについて

本書で使用しているマーク類は、以下のような内容を表しています。



ヒント

本装置をお使いになる際に、役に立つ知識をコラム形式で説明しています。

こんな事に気をつけて

本装置をご使用になる際に、注意していただきたいことを説明しています。



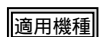
補足

操作手順で説明しているもののほかに、補足情報を説明しています。



参照

操作方法など関連事項を説明している箇所を示します。



適用機種

本装置の機能を使用する際に、対象となる機種名を示します。



警告

製造物責任法（PL）関連の警告事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。



注意

製造物責任法（PL）関連の注意事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

本書における商標の表記について

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe および Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Netscape は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。

UNIX は、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

製品名の略称について

本書で使用している製品名は、以下のように略して表記します。

なお、本文中では[®]を省略しています。

製品名称	本文中の表記
Microsoft [®] Windows [®] XP Professional operating system	Windows XP
Microsoft [®] Windows [®] XP Home Edition operating system	
Microsoft [®] Windows [®] 2000 Server Network operating system	Windows 2000
Microsoft [®] Windows [®] 2000 Professional operating system	
Microsoft [®] Windows NT [®] Server network operating system Version 4.0	Windows NT 4.0
Microsoft [®] Windows NT [®] Workstation operating system Version 4.0	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003, Standard Edition	Windows Server 2003
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003 R2, Standard Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003, Enterprise Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003 R2, Enterprise Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003, Datacenter Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003 R2, Datacenter Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003, Web Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003, Standard x64 Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003 R2, Standard Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003, Enterprise x64 Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003 R2, Enterprise x64 Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003, Enterprise Edition for Itanium-based systems	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003, Datacenter x64 Edition	
Microsoft [®] Windows Server [®] 2003 R2, Datacenter x64 Edition	
Microsoft [®] Windows Vista [®] Ultimate operating system	Windows Vista
Microsoft [®] Windows Vista [®] Business operating system	
Microsoft [®] Windows Vista [®] Home Premium operating system	
Microsoft [®] Windows Vista [®] Home Basic operating system	
Microsoft [®] Windows Vista [®] Enterprise operating system	
Microsoft [®] Windows [®] 7 64bit Home Premium	Windows 7
Microsoft [®] Windows [®] 7 32bit Professional	

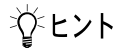
本装置のマニュアルの構成

本装置の取扱説明書は、以下のとおり構成されています。使用する目的に応じて、お使いください。

マニュアル名称	内容
ご利用にあたって	本装置の設置方法やソフトウェアのインストール方法を説明しています。
機能説明書	本装置の便利な機能について説明しています。
トラブルシューティング (本書)	トラブルが起きたときの原因と対処方法を説明しています。
メッセージ集	システムログ情報などのメッセージの詳細な情報を説明しています。
仕様一覧	本装置のハード／ソフトウェア仕様と MIB/Trap 一覧を説明しています。
コマンドユーザーズガイド	コマンドを使用して、時刻などの基本的な設定またはメンテナンスについて説明しています。
コマンド設定事例集	コマンドを使用した、基本的な接続形態または機能の活用方法を説明しています。
コマンドリファレンス	コマンドの項目やパラメタの詳細な情報を説明しています。
Web ユーザーズガイド	Web 画面を使用して、時刻などの基本的な設定またはメンテナンスについて説明しています。また、Web 画面の項目の詳細な情報を説明しています。

1 通信ができない場合には

通信ができない場合、さまざまな原因が考えられます。まず、以下を参考に本装置の動作状況を確認してください。



◆ エラー番号からトラブルの原因を探る

エラーログ情報に表示されたエラー番号から、エラーの原因をある程度特定できます。

エラーログ情報をプリントアウトして保管しておくことをお勧めします。



⚠ 警告

- 決してご自身では修理を行わないでください。
- 本装置が故障した場合は、弊社の技術者または弊社が認定した技術員によるメンテナンスを受けてください。

1.1 起動時の動作に関するトラブル

本装置起動時のトラブルには、以下のようなものがあります。

● READY ランプが消灯している

【原因】 本装置に異常が発生しました。

【対処】 弊社の技術員または弊社が認定した技術員へ連絡してください。

● CHECK ランプが橙色で点灯している

【原因】 本装置に異常が発生しました。

【対処】 弊社の技術員または弊社が認定した技術員へ連絡してください。

● CHECK ランプが橙色で点灯している

**接続した ETHER ポートに該当する Link/Act/Speed ランプが点灯していない
show system status 実行時の machine_state が、"FALLBACK" となっている
(SR-X316T2/324T2)**

【原因】 ハード障害を検出したため、縮退モードに遷移しました。

【対処】 弊社の技術員または弊社が認定した技術員へ連絡してください。

● PSU ランプが消灯している (SR-X316T2/324T2)

【原因】 電源ケーブルが、電源コネクタまたはコンセントに正しく接続されていません。

【対処】 電源ケーブルを、電源コネクタまたはコンセントに正しく接続してください。

● PSU1 ランプが消灯している (SR-X340TR1/526R1)

【原因】 電源ケーブルが、電源コネクタまたはコンセントに正しく接続されていません。

【対処】 電源ケーブルを、電源コネクタまたはコンセントに正しく接続してください。

● 電源二重化運用時に PSU2 ランプが消灯している (SR-X340TR1/526R1)

【原因】 電源ケーブルが、電源コネクタまたはコンセントに正しく接続されていません。

【対処】 電源ケーブルを、電源コネクタまたはコンセントに正しく接続してください。

● **ERROR ランプが橙色で点滅している (SR-X316T2/324T2)**

【原因】 USB メモリのファイルシステムに異常があります。

【対処】 USB メモリを再フォーマットするか、または交換してください。

【原因】 USB ポートで過電流を検出しました。

【対処】 弊社の技術員または弊社が認定した技術員へ連絡してください。

● **ERROR ランプが橙色で点滅している (SR-X340TR1/526R1)**

【原因】 USB メモリのファイルシステムに異常があります。

【対処】 USB メモリを再フォーマットするか、または交換してください。

【原因】 USB ポートで過電流を検出しました。

【対処】 弊社の技術員または弊社が認定した技術員へ連絡してください。

【原因】 SFP+ のアクセスで異常を検出しました。

【対処】 該当する SFP+ モジュールを交換してください。

● **PSU1 ランプ、PSU2 ランプが点滅している (SR-X340TR1)**

【原因】 電源二重化構成で、AC 電源ユニット 1 または AC 電源ユニット 2 のどちらかの電源ユニットが実装されていません。

【対処】 両方の AC 電源ユニットを実装してください。

● **PSU1 ランプ、PSU2 ランプが点滅している (SR-X526R1)**

【原因】 電源ユニットが、装置の実装方向に対して正しいスロットに接続されていません。

【対処】 電源ユニットを、装置の実装方向に対して正しいスロットに接続してください。

【原因】 AC 電源ユニットと DC 電源ユニットが同時に接続されています。

【対処】 電源二重化運用は、同種の電源ユニットを接続してください。

● **FAN ランプが点滅している (SR-X340TR1)**

【原因】 装置内部に搭載されている FAN ユニットの異常です。

【対処】 弊社の技術員または弊社が認定した技術員へ連絡してください。

● **FAN ランプが点滅している (SR-X526R1)**

【原因】 装置の搭載方式と、FAN ユニットの FAN の向きが合っていません。

【対処】 FAN ユニットの FAN の向きを装置の搭載方式に合わせてください。

☞ 参照 SR-X526R1 ご利用にあたって「FAN ユニットの風向きを変更する」

● **電源が入らない (SR-X526R1)**

【原因】 装置の搭載方式に対して、FAN ユニットの FAN の向きまたは電源ユニットの実装スロットが違っていません。

【対処】 FAN ユニットの FAN の向きおよび電源ユニットの実装スロットを装置の搭載方式に合わせてください。

☞ 参照 SR-X526R1 ご利用にあたって「2.2.1 本装置の搭載方式を決定する」、「FAN ユニットの風向きを変更する」

1.2 本装置設定時のトラブル

本装置設定時のトラブルには、以下のようなものがあります。

● 接続したETHERポートに該当するLINK/ACTランプ、または、パソコンまたはHUBのリンクランプが点灯していない

【原因】 スピード／全二重・半二重のモード設定が接続相手と合っていません。

【対処】 本装置の10／100／1000MおよびFULL／HALFの設定とパソコンまたはHUBの接続状態が合っているか確認してください。本装置はLINK/ACTランプまたはステータスコマンド（show ether）で接続状態が確認できます。

☞ 参照 [コマンドリファレンス](#) 「show ether」

【原因】 接続に誤りがあります。または、LANケーブルが断線しています。

【対処】 点灯していない場合は、LANケーブルが正しく接続されていないか、または断線している可能性があります。LANケーブルがパソコンまたはHUBと本装置に正しく差し込んであるかを確認し、それでも点灯しない場合は、別のLANケーブルに交換してください。

【原因】 ETHERポートのAutoMDI/MDI-Xの設定がonの状態、ETHERポートに接続しているパソコンまたはHUBのLANポートがAutoMDI/MDI-Xとなっている場合に、正常に接続できていません。

【対処】 本装置のETHERポートのAutoMDI/MDI-Xの設定をoffにします。または、ETHERポートに接続しているパソコンまたはHUBのLANポートの設定をoffにします。

【原因】 ケーブル長が最大ケーブル長を超えています。

【対処】 ツイストペアケーブルの場合は100m、光ファイバケーブルの場合は各ケーブル（MMFまたはSMF）の最大ケーブル長を超えないようにしてください。光ファイバケーブルの最大ケーブル長については、仕様一覧の「[SFP+ モジュール](#)」(P.11)を参照してください。

【原因】 構成定義に矛盾があります。

【対処】 定義矛盾の内容はシステムログに表示されています。システムログを参照して、矛盾が発生している箇所を修正してください。

【原因】 未サポートのSFP+ モジュールを使用しています。

【対処】 サポートしているSFP+ モジュールを使用してください。
サポートしているSFP+ モジュールについては、仕様一覧の「[SFP+ モジュール](#)」(P.11)を参照してください。

【原因】 SFP+ モジュールの種類が、接続相手のモジュールと合っていません。

【対処】 SFP+ モジュールの種類を、接続相手と合わせてください。

【原因】 SFP+ モジュールを、装置の電源がONの状態に取り付けました。

【対処】 ポートが閉塞状態になっていますので、閉塞状態を解除してください。online コマンドで閉塞解除できます。

☞ 参照 [コマンドリファレンス](#) 「online」
Web ユーザーズガイド「[2.4 物理ポート設定](#)」(P.25)

【原因】 LANケーブルがクロスケーブルではありません。

【対処】 マネージメントポート（SR-X526R1）に接続されている機器がMDI固定の場合、クロスケーブルを使用してください。

● telnetで本装置のIPアドレスを指定したがうまくつながらない

【原因】 パソコンのIPアドレスやネットマスクが間違っています。

【対処】 パソコンの設定でIPアドレスやネットマスクを設定している場合は、本装置と通信できるIPアドレスが設定されているかどうかを確認してください。



パソコン側のIP設定は、ipconfig コマンド (Windows 2000 / Windows XP / Windows Vista / Windows NTの場合) で確認できます。

【原因】 パソコンのARP エントリの値がおかしくなっています。

【対処】 本装置と同じIPアドレスを持つ機器と通信した直後に、パソコンの電源を落とさないまま本装置へ接続を変更した場合は通信できません。しばらく待つか、パソコンを再起動してください。

【原因】 本装置と同じIPアドレスを持つ機器が接続されています。

【対処】 IPアドレスが重複している機器がLAN上に存在すると、正しく通信できません。
本装置から設定を行うパソコン以外を接続しているLANケーブルを外し、パソコンを再起動してください。

【原因】 本装置にIPアドレスが設定されていません。

【対処】 本装置にIPアドレスを設定してください。

【原因】 本装置のIPアドレスが変更されています。

【対処】 変更後の本装置のIPアドレスを指定してください。

【原因】 パソコンのIPアドレスを変更していません。

【対処】 本装置のIPアドレスを変更した場合、必ずパソコン側のIPアドレスもそれに合わせて変更します。
パソコンのIPアドレスを本装置と直接通信可能なアドレスに変更してください。また、ネットマスクを本装置に設定した値と同じ値に設定してください。このとき、DNSサーバのIPアドレスも忘れずに入力してください。

● 変更した本装置のIPアドレスがわからなくなった

【対処】 コンソールでログオンして、構成定義を確認してください。

● 本装置に設定したパスワードがわからなくなった

【対処】 本装置をご購入時の状態に戻してください。それまでに設定した内容はすべて消えてしまいますので、最初から設定してください。



参照 「3 ご購入時の状態に戻すには」 (P.20)

1.3 LACP に関するトラブル

本装置で LACP 機能を利用する際のトラブルには、以下のようなものがあります。

● リンクアグリゲーションが構成されない

- 【原因】 リンクアグリゲーション接続先装置が LACP を利用したリンクアグリゲーションとして設定されていません。
- 【対処】 リンクアグリゲーション接続先装置を LACP を利用したリンクアグリゲーションとして設定してください。
- 【原因】 リンクアグリゲーション動作モードに passive を指定して、接続先も同様に passive と指定しています。
- 【対処】 どちらか一方は active と指定してください。
- 【原因】 リンクの接続が誤っています。
- 【対処】 リンクの接続を確認してください。同じリンクアグリゲーショングループのセットが直接接続されている必要があります。また、1つのリンクアグリゲーショングループに接続できる相手リンクアグリゲーショングループは1つです。1対nの接続はできません。
- 【原因】 半二重としてリンクが接続されています。
- 【対処】 全二重で接続されるようにしてください。

● 一部のリンクがリンクアグリゲーションメンバポートに追加されない

- 【原因】 あとから追加されたリンクが半二重接続であったり、回線速度が異なります。
- 【対処】 全二重かつ、ほかのメンバポートと同じ回線速度で接続されるようにしてください。
- 【原因】 追加リンクの接続が誤っています。
- 【対処】 リンクの接続を確認してください。同じリンクアグリゲーショングループのセットが直接接続されている必要があります。また、1つのリンクアグリゲーショングループに接続できる相手リンクアグリゲーショングループは1つです。1対nの接続はできません。
- 【原因】 追加リンク側のリンクアグリゲーション動作モードに passive を指定しているため、接続に時間がかかっています。
- 【対処】 30秒ほど経過することにより、active 側が LACP パケットを送信します。それを契機に接続が開始されます。これは仕様です。

● 故障したリンクアグリゲーションメンバポートがすぐにリンクアグリゲーションから切り離されない

- 【原因】 リンクアグリゲーション接続先装置がリンクダウンを検出していません。
- 【対処】 90秒ほどで LACP パケット受信タイムアウトを検出することによりリンクアグリゲーションから切り離されます。これは仕様です。linkaggregation lacp-timeout コマンドで変更することも可能です。

1.4 MLAGに関するトラブル

MLAG 機能を利用する際のトラブルには、以下のようなものがあります。

● MLAG が構成できない (show mlag コマンド実行結果で MLAG の状態が “Conflict” の場合)

【原因】 MLAG 構成装置で機種が異なります。

【対処】 本装置の MLAG 機能は同一機種のみ接続可能です。同一機種で構成してください。

【原因】 MLAG 構成装置間の MLAG 構成定義に不備があります。

- ドメイン ID が異なります。
- 装置 ID が同一、または定義されていません。
- ピアリンクポートが異なる、または定義されていません。
- Hello パケットの送信間隔が異なっています。

【対処】 システムログの出力内容から構成定義の不備箇所を確認し再設定後、装置を再起動してください。

【原因】 MLAG 機能有効後に、再起動を実施していません。

【対処】 再起動を実施してください。

● MLAG が構成できない (show mlag コマンド実行結果で MLAG の状態が “Individual” の場合)

【原因】 ピアリンクポートが正しく接続されていません。

【対処】 ピアリンクポートの接続状態を確認してください。また相手装置が “Conflict” の場合もありますので、相手装置の状態にも注意してください。

1.5 IGMP スヌープに関するトラブル

IGMP スヌープ機能を利用する際のトラブルには、以下のようなものがあります。

● パケットが転送されない

【原因】 IGMP パケットが到達しません。

【対処】 IGMP Membership report を広報しない装置が存在する場合は、IGMP スヌープ機能は利用できません。IGMP スヌープ機能を無効にしてください。

● パケットが VLAN 内に flooding されてしまう

【原因】 マルチキャストグループアドレスの制限を超えました。

【対処】 本装置で記憶できるマルチキャストグループアドレスの制限を超えた場合は、使用していないグループアドレスを削除してください。削除できるグループアドレスがない場合は IGMP スヌープ機能が利用できないため、IGMP スヌープ機能を無効にしてください。

登録されているマルチキャストグループアドレスの情報は IGMP スヌープ状態表示コマンド (show igmpsnoop) で確認できます。

☞ 参照 [コマンドリファレンス](#) 「show igmpsnoop」

1.6 SNMPに関するトラブル

SNMP機能でネットワークの管理を行う際のトラブルには、以下のようなものがあります。

● SNMPホストと通信ができない

【原因】 SNMPエージェントアドレスが正しく設定されていません。

【対処】 本装置のインタフェースに割り当てられているIPアドレスのどれかをSNMPエージェントアドレスとして設定してください。

【原因】 SNMPホストのIPアドレスが正しく設定されていません。

【対処】 本装置にアクセスするSNMPホストのIPアドレスを確認し、正しいIPアドレスを設定してください。

【原因】 コミュニティ名が正しく設定されていません (SNMPv1 または SNMPv2c 使用時)。

【対処】 本装置にアクセスするSNMPホストのコミュニティ名を確認し、正しいコミュニティ名を設定してください。

【原因】 SNMPユーザ名が正しく設定されていません (SNMPv3 使用時)。

【対処】 本装置にアクセスするSNMPホストのSNMPユーザ名を確認し、正しいSNMPユーザ名を設定してください。

【原因】 認証プロトコルまたは認証パスワードが正しく設定されていません (SNMPv3 使用時)。

【対処】 本装置にアクセスするSNMPホストの認証プロトコルまたは認証パスワードを確認し、正しい認証プロトコルまたは認証パスワードを設定してください。

【原因】 暗号プロトコルまたは暗号パスワードが正しく設定されていません (SNMPv3 使用時)。

【対処】 本装置にアクセスするSNMPホストの暗号プロトコルまたは暗号パスワードを確認し、正しい暗号プロトコルまたは暗号パスワードを設定してください。

1.7 通信性能に関するトラブル

通信性能に関するトラブルには、以下のようなものがあります。

● フルワイヤ性能がでない (SR-X340TR1)

【原因】 トラフィックの合計が、内部接続ポートの帯域を超えています。

本装置は、26 ポートのスイッチデバイス 2 個で構成されており、スイッチデバイス間を 2 本の内部接続ポートで接続しています。各内部接続ポートの帯域は 12Gbps で、合計 24Gbps となります。ETHER1～24、43、44 ポート（スイッチデバイス 0）と、ETHER25～42 ポート（スイッチデバイス 1）との間のトラフィックの合計が 24Gbps を超えると、内部接続ポートの帯域を超えるため、フルワイヤでの通信ができません。

【対処】

- 使用するポート番号を見直してください。

本装置では、使用するポートの番号によって、転送される内部接続ポートが決定されます。入力されたトラフィックは、ポート番号が奇数の場合、内部接続ポート 1 へ、ポート番号が偶数の場合、内部接続ポート 2 へ転送されるため、特定の内部接続ポートにトラフィックが集中しないように、使用する奇数番号ポートと偶数番号ポートの本数が均等になるようにしてください。

- 内部接続ポートのトラフィックが、内部接続ポートの帯域を超えないようにネットワーク設計をしてください。

本装置で想定し得る内部接続ポートを経由する最大トラフィックは 44Gbps であり（(10Gbps×2 ポート) + (1Gbps×24 ポート)）、使用ポート番号の見直しを行っても、内部接続ポートの帯域を超える場合があります。そのため、ネットワーク設計時は、なるべく各スイッチデバイス内のポート間でトラフィックが完結するようにして、内部接続ポートのトラフィックが 24Gbps 以下となるようにネットワーク設計をしてください。

● フルワイヤ性能がでない (SR-X526R1)

【原因】 トラフィックの合計が、スイッチ容量の最大値を超えています。

本装置は、10Gbps ポート×26 ポートで構成されており、すべてのポートを使用すると、合計 520Gbps の帯域を必要とします。

しかし、本装置で使用しているスイッチデバイスの帯域は最大で 400Gbps であるため、装置全体のトラフィックの合計が 400Gbps を超えるとフルワイヤでの通信ができません。

【対処】 使用するポート数を見直してください。

SR-X526R1 では、フルワイヤ通信を保証する最大ポート数は、20 ポートになります。

また、20 ポート使用時、以下の各グループでの最大使用ポート数を 5 ポートにしてください。

- グループ 1：ETHER1～3、23～26 ポート
- グループ 2：ETHER4～10 ポート
- グループ 3：ETHER11～16 ポート
- グループ 4：ETHER17～22 ポート

1.8 WWW ブラウザによる本装置への接続時のトラブル

WWW ブラウザによる本装置への接続時のトラブルには、以下のようなものがあります。

● Windows Vista をクライアント PC としている場合に、装置名による接続ができない (SR-X316T2/324T2/340TR1)

【原因】 接続に使用している本装置のインタフェースで IPv6 が有効になっていません。

【対処】 本装置は初期状態では、すべての ETHER ポートで IPv6 が有効となっています。

設定を変更した場合は、使用する lan インタフェースで IPv6 の使用を有効としてください。

また、クライアント PC と本装置の ETHER ポートを直接接続することでも問題が解決することがあります。

【原因】 接続に使用している本装置のインタフェースで LLMNR 機能が有効になっていません。

【対処】 本装置は初期状態では、すべての ETHER ポートが属する lan0 インタフェースで LLMNR 機能が有効となっています。

設定を変更した場合は、使用する lan インタフェースで LLMNR 機能を有効としてください。

また、クライアント PC と本装置の ETHER ポートを直接接続することでも問題が解決することがあります。

【原因】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用するように設定されています。

【対処】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用しないように設定を変更してください。

【原因】 指定した URL に誤りがあります。

【対処】 本装置は初期状態では、ETHER ポートとクライアント PC を接続し、URL (例: SR-X340TR1 の場合は、「http://sr-x340tr1/」) で装置名による接続が可能となっています。

装置名を変更した場合は、変更した装置名で接続を試みてください。

【原因】 本装置と同じ装置名を持つ装置が同一ネットワーク内に存在します。

【対処】 同一ネットワーク内に同じ装置名の装置が存在する場合は、装置名による接続ができない場合があります。この場合、クライアント PC と本装置の ETHER ポートを直接接続することでも問題が解決することがあります。

● Windows Vista をクライアント PC としている場合に、装置名による接続ができない (SR-X526R1)

【原因】 接続に使用している本装置のインタフェースで IPv6 が有効になっていません。

【対処】 本装置は初期状態では、マネージメントポートが使用する oob インタフェースでのみ IPv6 が有効となっています。SFP+ ポート経由による接続を可能とするためには、使用する lan インタフェースで IPv6 の使用を有効としてください。

また、クライアント PC と本装置のマネージメントポートを直接接続することでも問題が解決することがあります。

【原因】 接続に使用している本装置のインタフェースで LLMNR 機能が有効になっていません。

【対処】 本装置は初期状態では、マネージメントポートが使用する oob インタフェースでのみ LLMNR 機能が有効となっています。SFP+ ポート経由による接続を可能とするためには、使用する lan インタフェースで LLMNR 機能を有効としてください。

また、クライアント PC と本装置のマネージメントポートを直接接続することでも問題が解決することがあります。

【原因】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用するように設定されています。

【対処】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用しないように設定を変更してください。

【原因】 指定した URL に誤りがあります。

【対処】 本装置は初期状態では、マネージメントポートとクライアント PC を接続し、URL 「http://sr-x526r1/」で装置名による接続が可能となっています。
装置名を変更した場合は、変更した装置名で接続を試みてください。

【原因】 本装置と同じ装置名を持つ装置が同一ネットワーク内に存在します。

【対処】 同一ネットワーク内に同じ装置名の装置が存在する場合は、装置名による接続ができない場合があります。この場合、クライアント PC と本装置のマネージメントポートを直接接続することで問題が解決することがあります。

● IPv4 ネットワークアドレスを指定した接続ができない (SR-X316T2/324T2/340TR1)

【原因】 接続に使用している本装置のインタフェースで IPv4 が有効になっていません。

【対処】 本装置は初期状態では、すべての ETHER ポートで IPv6 を用いて接続が可能です。
IPv4 による接続を可能とするためには、使用する lan インタフェースで IPv4 アドレスを指定し、IPv4 の使用を有効としてください。

【原因】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用するように設定されています。

【対処】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用しないように設定を変更してください。

【原因】 指定した URL に誤りがあります。

【対処】 本装置に設定した IPv4 アドレスが URL に指定されているかを確認してください。

● IPv4 ネットワークアドレスを指定した接続ができない (SR-X526R1)

【原因】 接続に使用している本装置のインタフェースで IPv4 が有効になっていません。

【対処】 本装置は初期状態では、マネージメントポートが使用する oob インタフェースでのみ IPv6 を用いて接続が可能です。
IPv4 による接続を可能とするためには、マネージメントポート経由で接続する場合は、マネージメントポートが使用する oob インタフェースで IPv4 アドレスを指定し、IPv4 の使用を有効としてください。
SFP+ ポート経由による接続を可能とするためには、使用する lan インタフェースで IPv4 アドレスを指定し、IPv4 の使用を有効としてください。

【原因】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用するように設定されています。

【対処】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用しないように設定を変更してください。

【原因】 指定した URL に誤りがあります。

【対処】 本装置に設定した IPv4 アドレスが URL に指定されているかを確認してください。

● IPv6 ネットワークアドレスを指定した接続ができない (SR-X316T2/324T2/340TR1)

【原因】 接続に使用している本装置のインタフェースで IPv6 が有効になっていません。

【対処】 本装置は初期状態では、すべての ETHER ポートで IPv6 が有効になっていますが、IPv6 アドレスは設定されていません。
ETHER ポート経由による接続を可能とするためには、使用する lan インタフェースで IPv6 の使用を有効とすると共に、IPv6 アドレスを指定してください。

【原因】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用するように設定されています。

【対処】 クライアント PC の WWW ブラウザで Proxy サーバを使用しないように設定を変更してください。

【原因】 指定した URL に誤りがあります。

【対処】 本装置に設定した IPv6 アドレスが URL に指定されているかを確認してください。

● IPv6 ネットワークアドレスを指定した接続ができない (SR-X526R1)

【原因】 接続に使用している本装置のインタフェースでIPv6が有効になっていません。

【対処】 本装置は初期状態では、マネージメントポートが使用する oob インタフェースでのみIPv6リンクローカルアドレスによる接続が可能です。
IPv6リンクローカルアドレス以外での接続を可能とするためには、マネージメントポート経由で接続する場合は、マネージメントポートが使用する oob インタフェースでIPv6アドレスを指定してください。
SFP+ ポート経由による接続を可能とするためには、使用する lan インタフェースでIPv6の使用を有効とすると共に、IPv6アドレスを指定してください。

【原因】 クライアントPCのWWWブラウザでProxyサーバを使用するように設定されています。

【対処】 クライアントPCのWWWブラウザでProxyサーバを使用しないように設定を変更してください。

【原因】 指定したURLに誤りがあります。

【対処】 本装置に設定したIPv6アドレスがURLに指定されているかを確認してください。

1.9 外部メディアスタート機能に関するトラブル

外部メディアスタート機能に関するトラブルには、以下のようなものがあります。

● ERROR ランプが橙色で点滅している

【原因】 外部メディアスタート機能が異常終了しました。

【対処】 システムログメッセージまたは外部メディア内に作成された「output.txt」の内容を参照し、エラー内容を確認してください。

【原因】 外部メディアスタート機能でパスワード認証エラーが発生しました。

【対処】 装置に管理者パスワードが設定されている場合は、パスワードファイルを外部メディア上に用意する必要があります。

☞ 参照 コマンドユーザズガイド「[2.7.3 パスワードファイルの作り方](#)」(P44)

● 装置が起動できない

【原因】 外部メディアスタート機能の動作中に外部メディアが抜けた、または本装置の電源ケーブルが抜かれたなどの理由で、ファームウェアのインストールに失敗した可能性があります。

【対処】 バックアップファームを起動し、ファームウェアをインストールしてください。

☞ 参照 ご利用にあたって「[3.3 ファームウェア更新に失敗したときには](#)」(バックアップファーム機能)」

1.10 端末移動時のトラブル

端末移動時のトラブルには、以下のようなものがあります。

- **MAC アドレス学習テーブルが正しく更新できない (SR-X340TR1)**

【原因】 スイッチデバイスに跨った端末移動がSR-Xでリンクダウンをとまわずに短時間（約1分間）に繰り返し発生しています。



SR-X340TR1 は、以下2つのスイッチデバイスで構成されています。

スイッチデバイス0：ether1～24、43、44ポート

スイッチデバイス1：ether25～42ポート

【対処】 端末移動が想定されるポート構成を、同一スイッチデバイス内に集約してください。

2 コマンド入力が正しくできないときには

コマンドで設定や操作を行ったときに正しくコマンドが入力できない場合は、まず、以下を参考に本装置の動作状況を確認してください。

2.1 シェルに関するトラブル

シェルで入力編集を行う際のトラブルには、以下のようなものがあります。

- **シェルでの入力編集やページ表示時に、カーソルが変な位置に移動してしまう**

【原因】 端末の画面サイズが正しく設定されていません。

【対処】 terminal window コマンドで正しい画面サイズを設定してください。

【原因】 画面サイズを通知しないtelnetクライアントを使用しています。

【対処】 画面サイズを通知するtelnetクライアントを使用してください。または、terminal window コマンドで正しい画面サイズを設定してください。

- **特定の【CTRL】 + 【α】キーが動作しない（【α】キー：任意のキー）**

【原因】 端末ソフトウェアが【CTRL】 + 【α】キーを処理してしまうため入力できません。

【対処】 端末ソフトウェアの設定で、【CTRL】 + 【α】キーを使用できるよう設定してください。
 端末ソフトウェアに【ESC】キー（次に入力したキーをそのまま入力するキー）が用意されているのであれば、【ESC】キーを入力したあと【CTRL】 + 【α】キーを入力してください。

- **矢印キー（↑、↓、←、→）が動作しない**

【原因】 矢印キーをサポートしていない端末ソフトウェア（HyperTerminalなど）を使用しています。

【対処】 矢印キーの代わりに【Ctrl】 + 【B】キーおよび【Ctrl】 + 【F】キーでカーソル移動、【Ctrl】 + 【P】キーおよび【Ctrl】 + 【N】キーでコマンド履歴移動を行ってください。

3 ご購入時の状態に戻すには

本装置を誤って設定した場合やトラブルが発生した場合は、本装置をご購入時の状態に戻すことができます。また、本装置を移設する場合は、ご購入時の状態に戻してから設定してください。

本装置をご購入時の状態に戻す手順については、ご利用にあたっての「3.4.2 本装置をご購入時の状態に戻す」を参照してください。

索引

C

CHECK ランプ7

E

ERROR ランプ8

F

FAN ランプ8

I

IGMP スヌープ 12

IPv4 ネットワークアドレス 16

IPv6 ネットワークアドレス 16

L

LINK/ACT ランプ9

P

PSU1 ランプ7

PSU2 ランプ8

PSU ランプ7

R

READY ランプ7

S

SNMP ホスト 13

T

telnet 10

W

WWW ブラウザ 15

え

エラーログ情報7

こ

ご購入時の状態に戻す20

て

電源 8

電源二重化 7

は

パケット 12

パスワード 10

ふ

フルワイヤ性能 14

ほ

本装置 IP アドレス 10

ま

マニュアル構成 6

り

リンクアグリゲーション 11

SR-X トラブルシューティング

P3NK-5192-01Z0

発行日 2014 年 10 月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。
- 本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利、損害については、弊社はその責を負いません。